



# 平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月8日

上場会社名 名糖産業株式会社  
 コード番号 2207 URL <http://www.meito-sangyo.co.jp>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 寛志

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長兼経理部長 (氏名) 山崎 潔

TEL 052 521 7111

四半期報告書提出予定日 平成29年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	10,608	6.2	317	146.9	648	78.4	504	17.2
29年3月期第2四半期	9,991	3.4	128		363	39.7	430	28.5

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 2,095百万円 (717.4%) 29年3月期第2四半期 256百万円 (12.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	29.86	
29年3月期第2四半期	25.51	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	65,612	42,776	65.2
29年3月期	60,570	41,019	67.7

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 42,776百万円 29年3月期 41,019百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期				20.00	20.00
30年3月期					
30年3月期(予想)				20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,800	3.0	650	16.8	1,200	16.4	900	2.6	53.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 有  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	17,265,000 株	29年3月期	17,265,000 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	368,753 株	29年3月期	368,321 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	16,896,397 株	29年3月期2Q	16,882,119 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な海外景気や個人消費の回復に伴い輸出や生産が増加するなかで、企業の景況感が改善して景気回復のすそ野が広がりました。

しかし、企業の深刻な人手不足がリスク要因の一つとして挙げられて、景気の先行きには慎重な見方も残りました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、消費者の健康志向などにより高付加価値商品の需要が高まる一方で、企業間競争による販売促進費などが企業収益を圧迫して、厳しい事業環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上に引き続き注力するとともに、健康を追求した高機能商品の提供ならびに販売促進キャンペーンなど積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期と比べて6.2%増の10,608百万円となりました。営業利益につきましては、増収効果や退職給付費用の減少などにより、前年同期と比べて146.9%増の317百万円となりました。また、経常利益は、営業利益の増加に加えて、受取配当金などの営業外収益の増加や為替差損などの営業外費用の減少により、前年同期と比べて78.4%増の648百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、特別利益に新株予約権戻入益106百万円が計上されました前年同期と比べて17.2%増の504百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### 食品事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、チョコレートの効能に関心が寄せられるなか、主力の菓子部門は人気アニメキャラクターとコラボした「アルファベットチョコレートキャンペーン」などの販売促進プロモーションを展開しましたところ、売上が好調に推移して増収となりました。チョコレート類は、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」のほか、受託商品などが売上を伸ばして増収となりました。キャンディ類は受託商品の売上が減少しましたが、自社商品が健闘し売上が拡大して増収となりました。

粉末飲料部門は、増量キャンペーンなどの販売促進活動に取り組みましたところ、「香り高いミルクココア」や「スティックメイト フルーツアソート」などの売上が伸びて増収となりました。

主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、受託商品の売上が減少したものの、自社商品の売上が伸長して増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースカーリーは、新商品を投入して積極的な営業施策を実施しました結果、ゼリー類の売上は増えましたが、主力のパウムクーヘン類が市場競合の激化により苦戦して減収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ6.0%増の9,297百万円となりました。営業利益につきましては、減価償却費の増加や販売促進費の負担などが利益の圧迫要因となりましたが、売上高の増加や退職給付費用の減少などにより前年同期に比べ19.1%増の430百万円となりました。

#### 化成品事業

酵素部門につきましては、海外を主な市場としており、円安の追い風が続くなか精力的な営業活動を展開しましたところ、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は売上を伸ばしましたが、脂肪分解酵素「リパーゼ」の売上が低下し、減収となりました。

また、薬品部門につきましては、乳癌転移検出用医療機器で使用される「デキストランマグネタイト」が大きく売上を伸ばし、増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ8.3%増の1,153百万円となりました。営業利益につきましては、売上原価率の改善や営業費用の減少などにより前年同期に比べ355.9%増の153百万円となりました。

#### 不動産事業

不動産事業につきましては、ゴルフ場の営業収益の増加などにより、売上高は前年同期に比べ3.9%増の158百万円となり、営業利益は前年同期に比べ15.8%増の61百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ280百万円減少し、14,176百万円となりました。これは、現金及び預金が1,347百万円減少したことや、有価証券が499百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ5,322百万円増加し、51,435百万円となりました。これは、有形固定資産のその他(純額)に含まれる建設仮勘定が3,294百万円増加したことや、保有する株式の株価の上昇などにより投資有価証券が2,107百万円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ5,042百万円増加し、65,612百万円となりました。

### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2,672百万円増加し、7,707百万円となりました。これは、その他に含まれる未払金が2,577百万円増加したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ612百万円増加し、15,128百万円となりました。これは、繰延税金負債が683百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ3,285百万円増加し、22,836百万円となりました。

### (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,756百万円増加し、42,776百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が1,588百万円増加したことなどによります。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,337百万円減少し、5,895百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べ67百万円減少し、628百万円となりました。資金の主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益648百万円および減価償却費585百万円であり、主な減少要因は、たな卸資産の増加額554百万円であります。投資活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ1,133百万円増加し、1,514百万円となりました。資金の主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出1,238百万円および有価証券及び投資有価証券の取得による支出400百万円であります。また、財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ37百万円増加し、451百万円となりました。資金の主な減少要因は、配当金の支払額336百万円および長期借入金の返済による支出86百万円であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、概ね当初の想定した範囲内で推移しております。現時点では通期の連結業績予想につきまして、平成29年5月12日に公表いたしました数値を修正しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,942	5,595
受取手形及び売掛金	4,263	4,334
有価証券	501	1,000
商品及び製品	1,022	1,268
仕掛品	435	457
原材料及び貯蔵品	1,010	1,296
その他	295	236
貸倒引当金	△14	△13
流動資産合計	14,456	14,176
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,147	4,078
その他(純額)	8,631	11,923
有形固定資産合計	12,779	16,001
無形固定資産		
	69	67
投資その他の資産		
投資有価証券	33,042	35,149
その他	298	286
貸倒引当金	△76	△69
投資その他の資産合計	33,264	35,366
固定資産合計	46,113	51,435
資産合計	60,570	65,612

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,455	2,573
1年内返済予定の長期借入金	148	105
未払法人税等	132	92
返品調整引当金	8	5
その他	2,290	4,929
流動負債合計	5,034	7,707
固定負債		
長期借入金	5,814	5,771
繰延税金負債	5,137	5,821
役員退職慰労引当金	5	6
固定資産撤去費用引当金	210	210
退職給付に係る負債	2,917	2,919
その他	430	400
固定負債合計	14,515	15,128
負債合計	19,550	22,836
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,313	1,313
資本剰余金	76	76
利益剰余金	26,020	26,187
自己株式	△704	△705
株主資本合計	26,706	26,872
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,317	15,906
退職給付に係る調整累計額	△4	△2
その他の包括利益累計額合計	14,313	15,904
純資産合計	41,019	42,776
負債純資産合計	60,570	65,612

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	9,991	10,608
売上原価	6,675	6,935
売上総利益	3,316	3,673
販売費及び一般管理費		
販売促進費	1,191	1,350
給料手当及び賞与	710	734
退職給付費用	130	47
役員退職慰労引当金繰入額	1	1
貸倒引当金繰入額	-	0
減価償却費	31	48
その他	1,122	1,174
販売費及び一般管理費合計	3,188	3,356
営業利益	128	317
営業外収益		
受取利息	5	5
受取配当金	309	321
持分法による投資利益	-	27
その他	15	23
営業外収益合計	331	377
営業外費用		
支払利息	6	15
固定資産除売却損	37	24
支払手数料	-	3
持分法による投資損失	1	-
為替差損	47	-
その他	3	2
営業外費用合計	96	45
経常利益	363	648
特別利益		
新株予約権戻入益	106	-
特別利益合計	106	-
税金等調整前四半期純利益	469	648
法人税、住民税及び事業税	44	121
法人税等調整額	△5	22
法人税等合計	39	144
四半期純利益	430	504
親会社株主に帰属する四半期純利益	430	504

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	430	504
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△287	1,588
退職給付に係る調整額	113	2
その他の包括利益合計	△174	1,590
四半期包括利益	256	2,095
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	256	2,095

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	469	648
減価償却費	496	585
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	195	4
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△14	1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△8	△7
有価証券及び投資有価証券売却損益(△は益)	0	△0
有形固定資産除売却損益(△は益)	35	23
受取利息及び受取配当金	△315	△326
支払利息	6	15
持分法による投資損益(△は益)	1	△27
売上債権の増減額(△は増加)	618	△71
たな卸資産の増減額(△は増加)	△635	△554
仕入債務の増減額(△は減少)	239	118
その他	△477	52
小計	611	461
利息及び配当金の受取額	317	328
利息の支払額	△6	△15
法人税等の支払額	△227	△146
営業活動によるキャッシュ・フロー	696	628
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△13	△400
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	6	100
定期預金の払戻による収入	-	10
有形固定資産の取得による支出	△390	△1,238
その他	16	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△381	△1,514
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	30
長期借入金の返済による支出	△87	△86
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	42	-
配当金の支払額	△335	△336
その他	△33	△58
財務活動によるキャッシュ・フロー	△414	△451
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△99	△1,337
現金及び現金同等物の期首残高	2,800	7,232
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,701	5,895

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

耐用年数の変更

当社は、平成29年5月12日開催の取締役会において、新工場の建設を決議いたしました。この新工場の建設に伴い閉鎖となる名古屋工場のチョコレート製造部門等の固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ49百万円減少しております。

(セグメント情報等)

Ⅰ 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,774	1,065	152	9,991	—	9,991
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	8,774	1,065	152	9,991	—	9,991
セグメント利益	361	33	53	448	△319	128

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,297	1,153	158	10,608	—	10,608
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	9,297	1,153	158	10,608	—	10,608
セグメント利益	430	153	61	645	△328	317

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(別紙)

名糖産業株式会社

平成30年3月期第2四半期決算参考資料

(金額単位：百万円、百万円未満切捨)

1. 第2四半期連結累計期間(中間期)の実績推移  
(連結)

	25/9月	26/9月	27/9月	28/9月	29/9月
売上高	8,366	8,929	9,659	9,991	10,608
営業利益	△464	△557	△48	128	317
経常利益	17	△272	260	363	648
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5	△97	335	430	504

2. 通期の実績推移と業績予想  
(連結)

	26/3期	27/3期	28/3期	29/3期	30/3期予想
売上高	19,302	20,080	21,390	22,137	22,800
営業利益	△545	△292	482	556	650
経常利益	129	224	951	1,030	1,200
親会社株主に帰属する 当期純利益	△261	64	763	877	900